

ご挨拶

ミツカン水の文化センター設立10周年・30号発行にあたり



ミツカン水の文化センター代表
中埜 又左エ門 和英

1999年に開始した「ミツカン水の文化センター」の活動も、本年で10年目を迎えました。当センターが今日まで活動を続けることができたのも、ひとえに皆様からのご支援・ご指導あつてのことと、深く感謝いたしております。

当社は、文化元年（1804年）創業の当初から、良質な醸造酢をつくるために私設水道を敷設したり、廻船により尾張半田から江戸のほうまで食酢を運んだり、水と深いかわりを持ってまいりました。そうした「水」の恩恵を受け、「水」によって育てられてきた企業として、「水」をテーマとした社会貢献活動を行なうこととし、1999年に「ミツカン水の文化センター」を設立いたしました。

した。

人の営みの根源には、常に「水」が関係しており、人はあるときには「水」と闘い、あるときには「水」と共生しながら、自らの「暮らし」をつくり上げてきました。当センターでは、この人と水とのかかわりによって生み出されてきた、こうした生活様式を「水の文化」と捉えています。そして、さまざまな研究活動や情報交流活動を通じて「水の大切さ」をお知らせし「水」に関する意識向上を図っていきたいと考え、活動をしてまいりました。

1999年の開始以来、当センターでは、「人間生活の実に多くの事柄が水とかわりを持っています。水の大切さ

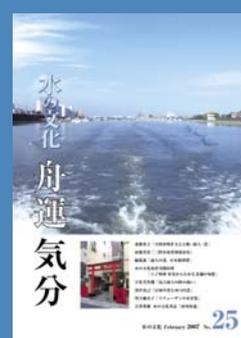
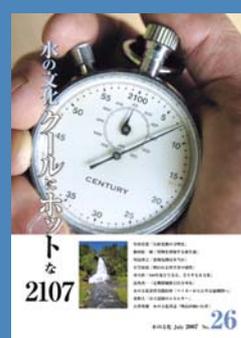
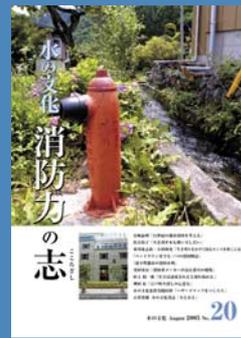
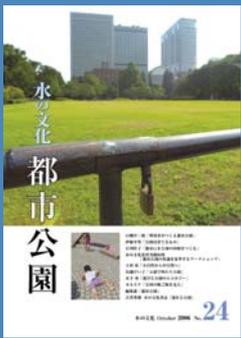
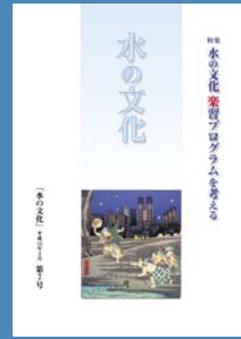
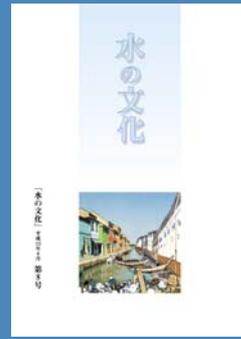
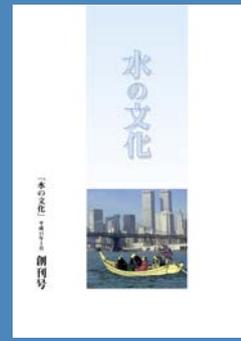
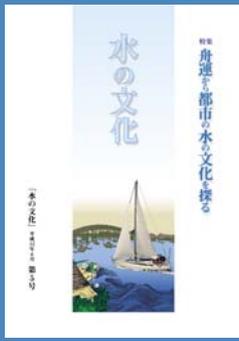
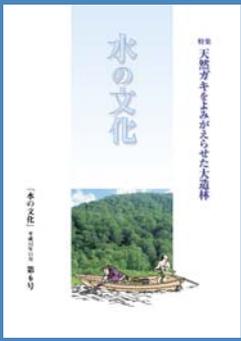
思い起こし、大事な水に眼を向けましよう」と申し上げ続けてきました。そして、同じような思いを持つ企業さまや研究者の皆さま、市民の方々、行政関係者、そして特に若手の方々から応援をいただくことが多くなつて参りました。特にこの4～5年ほどは、さまざまな分野の方から、お声をおかけいただくことが多くなつてきたと、実感しております。

水をめぐる状況は、この10年で、大きく変化してきております。地球環境問題の一つとして、水問題が取り上げられる機会も増え、「水は21世紀の生命を制するような資源である」という意識が、人々の間に浸透してきております。

「ミツカン水の文化センター」の活動は、水にかかわる生活意識調査、イベント、

あるいは機関誌の発行など、決して派手なものではございません。しかし、着実に続けていくことを念頭に置いております。この数年の水への関心の高まりを考えますと、このような活動こそが、水から恩恵を受け続けてきた当社流の社会貢献活動ではないかと、思いを強くしている次第です。

「ミツカン水の文化センター」は今後もみなさまとともに歩んで参ります。ご協力、ご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



12号 特集「水道の当然」 2002年 10月

- 嘉田由紀子 / 近い水、遠い水
神吉和夫 / 近世城下町に見る水道の知恵
小林郁雄 / 阪神淡路大震災 蛇口の水が止まった時
渡部一二 / 郡上八幡の水縁空間
小堀 巖 / 貴重な水を運ぶカナート
水みち研究会 / 水の文化楽習実践取材 (5) 水みちと会話する 地図の下の探検フィールド
編集部 / 水道は当然か
荒俣 宏 / 私にとっての水の文化
小関由美 / 紅茶の水色
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (3) 「井戸」
編集部 / 水に関する生活意識調査から

13号 特集「満水のタイ」 2003年 2月

- 高谷好一 / 雨期の世界単位
柿崎一郎 / チャオプラヤー川流域の近代物流史 水辺空間の価値を変えた交通モード
中島正博 / 水資源 開発と保全のあいだ
スワッター・タダニティー / 地域プランナーが語る水の国タイ 開発におけるテクノロジーと習慣の共存
アジアまち居住研究会 / アジアの水辺から見えてくる水の文化 タイ中部の水辺の住いと暮らし
森田敦郎 / コラム コラート高原の溜池から見るタイ社会の移り変わり
編集部 / 満水のタイ 写真紀行
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (6) 三重県長島町と岐阜県大垣市 輪中の知恵を伝えるリスクコミュニケーション
編集部 / 水を治める力
所澤さやか / ぐらしのまなざし 微笑みの国 タイ
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (4) 「アジアの水」
編集部 / 水にかかわる生活意識調査から データで読む水の文化

14号 特集「京都の謎」 2003年 8月

- 米山俊直 / 盆地都市と水の文化
カッパ研究会 / カッパが語る「京の水」
白幡洋三郎 / 盆地京都を庭園都市と見立てる 庭園は総合生活空間
樋口忠彦 / 領域感覚からの発見は何を生み出すのだろう 「何を見る」というよりは「どこから見る」
浜野 潔 / 歴史人口学から見た京都 水と町衆が生み出す暮らしの勢い
編集部 / 第3回世界水フォーラム報告
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (7) 第3回世界水フォーラムを取材する「水っ子新聞」 新聞発行から学ぶこころ言葉
編集部 / 盆地都市を想像する
松井 恵 / ぐらしのまなざし 夏の京都 水風景
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (5) 「京都の水」

15号 特集「里川の構想」 2003年 10月

- 高橋 裕 / 里川ー これからの川と都市
大熊 孝 / 「見直し」でつくる里川
海道清信 / 英国生まれのコンパクトシティ 日本に適用すると
菅 豊 / 都市の川を現代の commons に
森まゆみ・陣内秀信 / 現代都市の「里という居住地」とは
鷲谷いづみ / 生きものとヒトが川を合作する
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (8) 佐賀 自然と暮らしを考える研究会 川を「里川化」する水車の復元
編集部 / 里川の構想
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (6) 「里川」
編集部 / 水にかかわる生活意識調査から データで読む水の文化

16号 特集「お茶の間力」 2004年 2月

- 角山 榮 / 茶の社会史
熊倉功夫 / 茶の湯 そのコミュニケーションの仕掛け 社交をつくる喫茶文化
佐伯順子 / 遊女と客がつくるサロンの一瞬 遊ぶ芸から見る芸へ
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (9) 群馬県中之条町 園茶の神事を伝えるお茶講保存会 「遊ぶお茶」は現代の「講」 菓子における伝統と革新 守るべきはもてなしの心
黒川光博 / 中国茶 もてなされ写真紀行
編集部 / 中国茶 もてなされ写真紀行
水野俊作 / 消費者が緑茶に感じる価値とは 茶葉で飲むか、ドリンクで飲むか
角山 榮 / 新しい人間関係とライフスタイルの行方 お茶が生み出すもてなし関係
編集部 / お茶の間力 もてなしのすすめ
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (7) 「茶」
編集部 / 里川研究掲示板 水の文化交流フォーラム2004レポート

17号 特集「雨のゆくえ」 2004年 8月

- 沖 大幹 / 雨に思えば
倉嶋 厚 / 天気予報官の前をみるころと判断 忘れられない雨のはなし
村瀬 誠・佐藤 清・人見達雄 / 『都市の水循環』発刊から四半世紀を振り返る 個人下水道という発想の現在
山田吉彦 / 雲が風を呼び、風が雨を連れてくる 海に生きる観天望気
石田潤一郎 / 屋根から雨に思いを馳せる 雨をしのぐ屋根、外に誇る屋根
登 芳久 / 透水性舗装と排水性舗装はどこが違う 雨を通す道路舗装
芳賀 徹 / 日常に非日常を生み出す雨の緊張感 表現される雨
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (10) 沖縄方言普及協議会 沖縄方言で表現される天水の恵み 言葉は文化 新聞で伝える沖縄文化
編集部 / 雨はどこへいくのか
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (8) 「俳句・短歌」
編集部 / 里川研究掲示板

「水の文化」総目次

創刊号 1999年 1月

- 富山和子 / 「水の文化」とは何か
第1回『ため池文化《香川》融通の智恵』平成6年大日ばつ 何が都市を救ったか
陣内秀信・岡本哲志 / 『舟運を通して都市の水の文化を探る』(1)

2号 「水情報との上手なつきあい方」 1999年 6月

- 編集部 / 情報の海に漕ぎだす前に「探す」まずは現場へ、でもその前に「読む」「集める」「整理・分類する」「調べてみる」
富山和子 / 「水の文化」とは何か
第2回『日本の浦島、中国の浦島』日本海・丹後半島、浦島伝説を訪ねて

3号 1999年 10月

- 編集部 / 「水にかかわる生活意識調査」
早川 光 / 「湧き水の向こうに見えるもの」
陣内秀信 / 「世界水の都」
富山和子 / 「水の文化」とは何か 第3回 『有明海と《佐賀》アオ(淡水)の世界』

4号 特集「ぐらしと水の多様な関係」 2000年 1月

- 編集部 / 「調査の方法」「キーワード一覧」「整理のための3つの視点」「新聞記事検索でわかる傾向」「調査結果概要」
坂本貴昭 / まちづくり 地域振興ツールとしての「水」 『水の力を地域づくり・まちづくりにつなげる社会実験ーEポート』
川藤健司 / 消えゆく水都と伝統 『木場を受け継がれる川並の心意気』
東京都下水道局 / 進化する下水と河川 『下水道整備の考え方』
進士五十八 / 水から見る遊び、教育の風景 『水景と水系、そして水辺の体験』
村瀬 誠 / 雨水利用の展開 『雨水利用の夢』
福士祐次 / 水と食文化ー飲料水の変遷 『食文化としての飲料水』

5号 特集「舟運から都市の水の文化を探る」 2000年 6月

- 陣内秀信・岡本哲志 / 「舟運から都市の水の文化を探る」中間報告 ヴェネツィアー水の都市のモデル/アマルフィー海の門をもつ斜面都市/アムステルダムー運河が造る幾何学都市/蘇州ー中国の水郷都市/バンコクー水と共生する都市/瀬戸内ー歴史を物語る港町ネットワーク
陣内秀信 / コラム『「水の都市を読む」とはどういうことか』『港・運河・都市の構造を読むにはーヴェネツィアを例に』『市場と広場ーヴェネツィアに見る』『宗教空間・祝祭空間ー都市のイメージ発信』
編集部 / 陣内チーム流 舟運からの都市の読み方 協働フィールドワークマニュアル 町を読む、動きのポイント
陣内秀信 / 水の空間の再評価ー現代都市への活かし方・ミラノ

6号 特集「天然ガキをよみがえらせた大造林」 2000年 11月

- 富山和子 / 「水の文化」とは何か 第4回 天然ガキをよみがえらせた大造林パイロット・フォレストー 荒廃した国土から日本人はいかに立ち上がったか《北海道 標茶町・厚岸町》

7号 特集「水の文化楽習プログラムを考える」 2001年 2月

- 編集部 / 水の文化楽習プログラムとは
進士五十八・赤坂信・山道省三 / 水との原体験を伝える環境楽習ー教育と体験のあいだー
嘉田由紀子・小坂育子 / 関わりを育んだ「ホタル調査」

8号 2001年 1月

- 編集部 / 水の文化楽習実践取材 (1) こどもが動く、地域もろくくー岡山県 旭川流域ネットワークー
陣内秀信 / 空間と水の文化ー未来を創るために歴史を活かす知恵ー
陣内秀信・岡本哲志 (岡本哲志都市建築研究所代表) / 「舟運を通して都市の水の文化を探る」ヨーロッパ編ーヴェネツィアとアムステルダム 水が彩る交易都市

9号 2001年 11月

- 編集部 / 水の文化楽習実践取材 (2) 「漁の文化」と「海の文化」は同じもの？ー 京都府 海づくり少年団ー
富山和子 / 「水の文化」とは何か 第五回 北前船から北洋漁業へー富山 『パイ船文化研究会』が見た大日本海時代ー

10号 2002年 2月

- 編集部 / 水の文化楽習実践取材 (3) かたちにならぬ「水の文化」を残すには？ー 寸劇「淳史君の溜池たんけん」に見る滋賀県湖東町の楽習実験ー
編集部 / 第9回世界湖沼会議レポート
アジアまち居住研究会 / アジアの水辺から見えてくる水の文化 タイの首都バンコク トンブリー地区
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (1) 「雨」

11号 特集「洗うを洗う」 2002年 8月

- 波平恵美子 / 水とキヨメ きれいときたない
山折哲雄 / 涙はなぜ美しいのか 風土、宗教、文明から見る水の浄化力と浄めの文化
大場 修 / 風呂はハレ空間だった 現代の入浴スタイルはいつから始まったのだろう
寺田 實 / 土地の文化を知らないと洗濯機は作れない 洗濯機の商品開発と消費者のライフスタイル
藤井徹也 / 白もの信仰と清潔な香り 技術者が語る洗剤の戦後文化史
編集部 / 清潔感を洗う
松本 葉 / シャボンの香り
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (4) 水環境ネット東北 おとなが楽しめない子どもに伝わらない
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (2) 「雨乞い」

24号 特集「都市公園」2006年10月

- 白幡洋三郎 / 一人ひとりの物語が潤いを育む 利用者がつくる都市公園
伊藤幸男 / 造園業はコミュニティの結節点 公園は育てるもの
石川幹子 / 水路を公園にする夢を描いて 都市に水と緑の回廊をつくる
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (17) 岐阜県各務原市パークレンジャー
都市公園の常識を革新するワークショップ
上田 篤 / 鎮守の森は都市公園の原形の一つ 小自然から中自然へ
鳥越けい子 / ランドスケープにおける音風景の復権 五感で味わう公園
木下 勇 / 泥んこ遊びでまちも育つ 遊びと公園のエコロジー
ヨネスケ / みずだより 全国の晩ご飯を見た
編集部 / 文化をつくる 都市公園
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (15) 「親水と公園」
編集部 / 水にかかわる生活意識調査

25号 特集「舟運気分」2007年2月

- 斎藤善之 / 江戸後期三大航海圏と高い世界 全国市場を支えた船・商人・港
高橋美貴 / 船主・商人ネットワークの水産資源へのインパクト 三陸水産資源盛衰史
編集部 / 江戸後期から現代に至る高い満干 商人の港、日本橋界限
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (18) 愛知県岡崎市
カクキュー史料館 八丁味噌 社史からわかる老舗の知恵
宇佐美英機 / 高い公用語は江州弁 近江商人の陸の高い
深沢克己 / 港から見えてくるヨーロッパ文明の形成過程 治海岸港と河口内港
川上麻衣子 / みずだより スウェーデンの水景色
編集部 / 文化をつくる 舟運気分
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (16) 「河川舟運」
編集部 / ミツカン水の文化交流フォーラム2006 レポート

26号 特集「クールにホットな2107」2007年7月

- 安田喜憲 / 健全な水循環を育んだ稲作漁撈文明の知恵 気候変動の文明史
藤田統一郎 / 自然との共生で取り戻す健康と安全 異物を排除する衛生感
川島博夫 / 人口予見と食糧生産量の推計 食糧危機は本当か
小笠原敦 / 自然科学への新たなアプローチ 問われる科学者の感性
沖 大幹 / 高騰するエネルギーと水資源 100年後どうなる、どうする水文化
近角真一 / 良い建物を都市に残す仕組みとしての 定期借地権と区分所有
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (19) オリックス自動車
モーターシフトを進めるカーシェアリング マイカーから公共交通機関へ
北野 大 / みずだより お天道様のエネルギー
編集部 / 文化をつくる 新江戸シナリオの可能性
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (17) 「明治が画いた夢」

27号 特集「触発の波及」2007年10月

- 編集部 / 暮らしの中の水とのつきあい方と心を探った 水にかかわる生活意識調査13年
池富 徹 / 温暖化と生活意識 危機感の値段
諸内 恵 / アラブと日本で「水の文化」はどう違うのか 生活文化に根差した水意識
川路直彦 / エコと快適を満たす水洗トイレ最新事情 節水意識を実現した水研究
泉 麻人 / みずだより みずみずしいと感じる有名人
編集部 / ご当地水道水、飲み比べ なぜ名古屋の水はおいしいのか
島谷幸宏 / 真の清流は、地域の文化や風景があっただけ 変化する川、自由な川が美しい
陣内秀信 / 大東京、水辺空間の変遷 身近な都市の水辺に夕暮れ文化を
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (20) (牡蠣の森を慕う会) 20周年に向けて
海からのラブレター
鳥越皓之 / 水に対する恐れや礼節を越える遊びの文化 愛でる楽しむ華やぐ
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (18) 「水と暮らしの変遷」
編集部 / 文化をつくる 触発の波及

28号 特集「小水力の包蔵力」2008年2月

- 倉阪秀史 / 永続地帯指標から見る小水力と地域づくり 中山間地はエネルギー先進地域
三野 徹 / 水路をエネルギーの路へ 水路を「共の論理」で運用する
小坂克信 / みたか水車博物館 働く水車が伝える水のポテンシャル
小林 久 / 地域小水力発電のポテンシャル エネルギー自立型から供給型へ
新エネルギー財団 / 小水力発電の普及は住民参加型の発電所運営が鍵
環境を自分たちの力で守るエコ意識
阿部敏明 / 市場原理を利用した気候変動回避への取り組み 排出量取引の現状
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (21) 長野県大町市
NPO地域づくり工房 ミニ発電でくるくる地域づくり
永島敏行 / みずだより 水、土、木、無心になれるもの
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (19) 「水路」
編集部 / 文化をつくる 小水力の包蔵力
編集部 / ミツカン水の文化交流フォーラム2007レポート

29号 特集「魚の漁理」2008年6月

- 奥村彪生 / 準業食民俗の憧れ 魚食文化 日本人の生食嗜好
井田徹治 / 「乱獲の経済」の破綻危機を認識する 水産資源の見える化
小野征一郎 / 川上から川下まで、すべての人に正当な利益を マグロのフードシステム
福元勝志 / こたわり素材で生き残りをかける 水産市場の目利き
小境卓治 / 漁師が育んだ水見の歴史 資源管理につながった台網漁
胡桃沢勳司 / 豪雪を越えて運ばれた海の幸 プリの街道
編集部 / 独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所 つくり育てる漁業
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (22) 秋田県漁業組合
県民と漁業者が丸で守るハタハタ文化 禁漁で資源を回復
さかなクン / みずだより おさかなで生きる
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (20) 「コモンスとしての里海」
編集部 / 文化をつくる 魚食文化と漁業資源管理

18号 特集「排水は廃水か」2004年11月

- 鳥越皓之 / 排水は困った存在だ
栗田 彰 / 雨水排水路が汚水を流す下水道に 江戸から東京へ流れる排水の歴史
泉 桂子 / 水源涵養と林業経営をめぐる森林思想史 溜める水と使う水
中山幹康 / 利用の想像が国際河川の協力関係をつくる 上下流紛争の裏にある排水と利用の構造
鬼頭秀一 / 見えない技術で生きるための環境技術倫理 排除すること使いこなすこと
真勢 徹 / 人間を扶養する力を持つ水効率とは 灌漑排水の効率化が必要だ
編集部 / コラム 見て歩いて考えた八郎潟
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (11) 流域の情報を網羅する、21年の歴史を持つ社会科副
読本 小学生は、水をどのように学んでいるのか
編集部 / 捨て去ることが、排水か
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (9) 「下水道」
編集部 / 里川研究掲示板

19号 特集「合意の水位」2005年2月

- 長坂寿久 / 21世紀型合意形成のあり方 オランダモデル
編集部 / 地球温暖化がデルタ計画に与えた衝撃 水管理国家の政策転換は話し合い
編集部 / 水管理委員会の仕事 水の地域政府
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (11) 新潟県・亀田郷のワークショップ
土地改良区が都市化してきた時の合意形成
後藤 猛 / くらしのまなざし オランダジョーク
編集部 / ハグ郊外の国営砂丘水道 砂丘はオランダのめぐみ
編集部 / オランダNGOが考える人の手 コントロールされた自然
長坂寿久 / コントロールする社会を支えるのがNGO・NPOセクター オランダモデルから見た日本
編集部 / 世間の合意形成
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (10) 「西ヨーロッパ」
編集部 / 水の文化交流フォーラム2004レポート
編集部 / 里川研究掲示板

20号 特集「消防力の志」2005年8月

- 室崎益輝 / 阪神淡路大震災から10年 21世紀の都市消防を考える
佐宗祐子 / 独立行政法人消防研究所の役目 火を消す水も使い方したい
重川希志依、小村隆史 / 生き残りをかけて防災センスを磨くには
編集部 / 消防署員・消防団員・女性消防団員 ベッドタウンを守る三つの消防物語
編集部 / 東京丸の内サラリーマン消防団 超不燃都市の消防水利
浅田栄治 / 消防車メーカーが語る消火の現場
村上陽一郎 / 安全は達成されると壊れ始める
神田 紅 / みずだより 江戸町火消しの心意気
編集部 / 文化をつくる 消防
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (13) 東京都 神田川ワークショップ ハザードマップをつくらう
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (11) 「火と水と」
編集部 / 里川研究掲示板
編集部 / 第11回 水にかかわる生活意識調査から 消防と水

21号 特集「適当な湿気」2005年11月

- 神崎宣武 / 高温多湿でこそ発揮される日本の衣食住文化 湿気と仲良くするライフスタイル
辻本 誠 / 涼しさを分かち合い、窓を開けるための技術 微細水滴がつくるチヨット涼しい屋外環境
野沢正光 / 良好な外部空間をコモンスとしてつくりだす 屋内気候とまち内気候の調和
田村照子 / 一番身近な環境を整えること 衣服気候の風合い
村田孝子 / 肌環境を司る化粧文化
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (14) 神戸市 水の科学博物館
水道歴史遺産を水の科学ミュージアムに
神近牧男 / 省エネ温室の経験が造水技術に変化するまで 湿度の高い砂漠大気から水を絞り出す
笹岡隆次 / みずだより 湯気は見た目のご馳走です
編集部 / 文化をつくる 肌で感じる湿気
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (12) 「湿気と乾燥」
編集部 / 里川研究掲示板

22号 特集「温泉の高揚」2006年2月

- 神崎宣武 / 日本温泉文化史
菊川城司・坂寺一洋 / 神奈川県温泉地学研究所 地下水としての温泉保全入門
山村順次 / 住民自らが地域性を再認識して生き残る 個性ある温泉地に
今野清十郎 / 農家の家鳴子温泉に今も残る湯治の場
石森秀三 / ハッピネスを基準とする維持可能な感幸
編集部 / 利用する側と管理する側の総有 野沢温泉村の湯仲間と野沢組
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (15) 長野県 野沢温泉村
地域の文化資源を伝える野沢組と道祖神祭り
野沢美季 / みずだより 女将が守る温泉宿
編集部 / 文化をつくる 温泉の効用？
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (13) 「温泉」
編集部 / ミツカン水の文化交流フォーラム2005レポート

23号 特集「水商売の理」2006年7月

- 山本一力 / 命の根幹を商う心意気 江戸の水売り
村上雅博 / 安全な水を手に入れるために 水はただではないという文化
サントリー / 顧客に応える飲料用水とは 現代の水高い企業
ウェルシー / 水売りのベンチャーズスピリット 地下水ビジネスで広がる分散型工場
編集部 / 水の文化楽習実践取材 (16) 横浜市 水源林ボランティア
県境を越えて共に育み流域の資源を守る
横浜水道局 / 経営戦略を意識した水ビジネスへ 公営企業 水道局の総合力
高松水道局 / 節水の意味を問いつつ 濁水地における水道ビジネスの難しさ
宮田章司 / みずだより 水売りの声
編集部 / 文化をつくる 水商売の理
古賀邦雄 / 水の文化書誌 (14) 「水の商品化」
編集部 / 第4回世界水フォーラム 子ども特派員報告 子どもが見た世界水フォーラム
編集部 / 里川研究掲示板